**別記第４号様式の１**（第１３条関係）

遺伝子組換え実験計画書

（第一種使用等）

年　　月　　日

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 申請の種類  （注１） | 実験の区分  （注２） | 拡散防止措置  （注２） | 公的経費  （注３） |
| □新規  □継続  □変更 | ・微生物・培養細胞を宿主とする実験  　　　□未同定ＤＮＡ実験  　　　□同定済みＤＮＡ実験  　　　□大量培養実験  ・動物を用いる実験 □作出 □使用 □接種  ・植物を用いる実験 □作出 □使用 □接種 | □非閉鎖系区画  □屋外特定区画  □その他屋外の区画 | □有  　□科研費  　□その他  　（ )  □無 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 課　　 　題　 　　名 | |  | | | |
| 実験実施期間（注４） | | 年　　月　　から　　　　年　　月　　まで | | | |
| 実  験  責  任  者 | 所属・職名 |  | | | |
| 氏　　　　名 |  | | | |
| 連絡先 | ＴＥＬ　　　　　　ＦＡＸ　　　　　　Ｅ-mail | | | |
| 実  験  場  所 | 名　　　　称 |  | | | |
| 実  験  従  事  者 | 氏　　　　名 | 所　属　・　職　名 | | 宿主及びその取扱い  経験年数（注５） | 遺伝子組換え実験  経験年数（注６） |
|  |  | |  |  |
| ※  遺伝子組換えＤＮＡ実験安全委員会が本実験計画の実施を適当と認める理由 | |  | | | |
| 委員長の所属・職名・氏名 | |  | |
| 実験課題名 | | |  | | |
| 実験の目的 | | |  | | |
| 実験の概要 | | |  | | |

(A) 遺伝子組換え生物等に関する事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 遺伝子組換え生物等の種類及びその作出方法（注７） | |  |
| 宿  主  及  び  宿  主  の  属  す  る  生  物  種 | 分類学上の位置  （注８） |  |
| 自然界における分布  （注９） |  |
| 生殖・繁殖様式及び  遺伝的特性（注10） |  |
| 当該生物の属する生  物種における有毒物  質産生の有無(注11) |  |
| その他の特性（植物  の場合は雑草性の有  無を含む）（注12） |  |
| 供与ＤＮＡの由来、種類、  機能、大きさ、純化の程度  及びその構成（注13） | |  |
| ベクターの由来、構成及び特性（注14） | |  |
| 組換えＤＮＡ分子の構成図  （注15） | |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| こ  れ  ま  で  の  実  験  で  得  ら  れ  た  知  見 | これまでの実験経過  （注16） | | |  |
| 元  の  宿  主  と  遺  伝  子  組  換  え  生  物  等  の  相  違 | 供  与  Ｄ  Ｎ  Ａ  の  発  現 | 発現形質 |  |
| 発現の安定性（注17） |  |
| 供与ＤＮＡの存在状態  （注18） |  |
| 有毒物質産生の 　有　 無 |  |
| 生殖、繁殖様式及び遺伝的特性 | |  |
| その他の特性 | |  |
| その他得られた知見 | | |  |

(B) 遺伝子組換え生物等を接種する動植物に関する事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 遺伝子組換え生物等の  接種の方法 | |  |
| 物遺  及伝び子当組該換  動え植生  物物  種等  のを  属接  す種  るす  生る物動  種植 | 分類学上の位置  （注８） |  |
| 自然界における分布  （注９） |  |
| 生殖・繁殖様式及び  遺伝的特性（注10） |  |
| 当該生物の属する生物種における有害物質産生の有無（注11） |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | その他の特性(植物の場合は雑草性の有無を含む）  （注12） |  |
| 遺伝子組換え生物等の接種が動植物に与える影響  （注19） | |  |

(C) 実験の実施方法に関する事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 栽培・飼育等の規模  （注20） | |  |
| 栽培・飼育等の方法  （注21） | |  |
| 施  設  等 | 位置及び周辺との隔離状況（注22） |  |
| 規模、構造及び設備  （注23） |  |
| 周辺の環境における生物種（注24） |  |
| 周辺の環境の気象条件及びその影響  （注25） |  |
| 遺伝子組換え生物等の区域外への漏出・飛散・逃亡防止のための措置（注26） | |  |
| 組換え遺伝子の区域外への伝播防止のための措置  （注27） | |  |
| 実験終了後の遺伝子組換え生物等、廃棄物等の処置方法及びその有効性（注28） | |  |
| 実験区域への従事者以外の立ち入り防止の措置  （注29） | |  |

　※印欄は、記入不要。

**計画書記入要領**

　本様式の各項目に記入する。記入できない場合は別紙を添付し、該当項目に別紙番号を記入すること。

　課題名等の他、遺伝子組換え生物等を用いる実験は(Ａ)及び(Ｃ)について、遺伝子組換え生物等を動植物に接種する実験は(Ａ)から(Ｃ)について必要事項を記入すること。

注１．該当項目にチェックを入れること。

注２．本計画において該当する項目すべてにチェックを入れること。

注３．公的経費の有無について該当項目にチェックを入れるとともに、ある場合はその種類を記入すること。

注４．予定している実験実施期間（５年を限度とする）を記入すること。

注５．宿主として使用する生物種の取扱い経験の有無及び経験年数を記入すること。なお、宿主が微生物、動物、植物を同時に含む実験計画の場合は、その宿主毎について記入すること。

注６．遺伝子組換え実験の経験の有無並びに経験年数を記入すること。

注７．使用する遺伝子組換え生物等の種名及び作出方法（パーティクルガンにより細胞にＤＮＡを導入した後に植 物体を再生等）を具体的に記入すること。

注８．生物等の種類又は系統名を記入すること。

注９．わが国における分布状況及び必要に応じて原産国等における分布状況を記入すること。

注10．植物の場合は以下①～⑥について、その他の場合は自然界における生活サイクルについて記入すること。

　　〔①種子繁殖、栄養繁殖の別　②一年生、多年生の別　③種子又は栄養体の拡散様式　④自家受粉、他家受粉の別　⑤花粉の拡散様式　⑥交雑様式〕

注11．有無及びある場合は、その名称及び有害さの程度を記入すること。

注12．生育可能温度等の生育条件を記入すること。

注13．ＤＮＡ供与体の属・種・必要に応じて系統名、ゲノム・相補などのＤＮＡの種類、構造遺伝子・発現調節遺伝子等の機能、使用するＤＮＡの機能部分の大きさ、クローン化等による純化の有無及びその程度、各機能部分の構成図等について記載すること。

注14．薬剤耐性等ベクター内の遺伝子機能、その由来及び構成について記述すること。

注15．供与ＤＮＡ及びベクターの構成を遺伝子部位等を含め図示すること。

注16．組換え動植物の作成実験、植物栽培施設における栽培実験又は動物飼育施設における繁殖等これまでに実施してきた実験について、委員会における承認年月日、実験の時期、方法、組換え動植物の継代数等を含めて具体的に記載すること。

注17．発現を検討した個体の数、世代数、分析方法について記載すること。

注18．供与ＤＮＡの存在の状態を、検討した個体の数、世代数、分析方法を含め記載すること。

注19．遺伝子組換え生物等を接種した動植物についてその予想される影響を記載すること。

注20．栽培する組換え植物又は遺伝子組換え生物等を接種する植物の個体数と栽培面積、飼育する組換え動物又は遺伝子組換え生物等を接種する動物の個体数と飼育面積等を記載すること。また、当該施設において異種の生物が栽培・飼育されている場合等はその生物種及び栽培暦・飼育暦等を記載すること。

注21．組換え植物又は遺伝子組換え生物等を接種する植物の栽培方法と容器の使用の有無、組換え動物又は遺伝子組換え生物等を接種する動物の飼育方法と容器使用の有無等について記載すること。

注22．使用する施設・実験区域等の位置が分かるように、周辺の建物・河川等をあわせ図示すること。

注23．使用する施設・実験区域等の規模、構造及び設備、委員会による認可年月日について記載すること。

注24．使用する施設・実験区域等の周辺に、組換え生物又は遺伝子組換え生物等を接種する生物と交配可能な生物が生息する場合に記載すること。

注25．最高気温、最低気温、平均気温、降水量その他の気象条件及び、組換え生物又は遺伝子組換え生物等を接種する動植物の生育や生存に対する影響について記載すること。

注26．消毒、除雄、袋かけ、栽培容器の使用、飼育容器の使用、実験衣の着用等、組換え生物又は遺伝子組換え生物等を接種する生物が実験施設・区域外に流出しないために講ずる措置を具体的に記載すること。

注27．大量培養実験、動植物を用いる実験の場合に記入すること。培養・飼育・栽培等における漏出・逃亡・飛散防止に係る管理方法、種子・水・排泄物の不活化等、拡散防止方法について記載すること。

注28．実験終了後の組換え生物又は遺伝子組換え生物等を接種した生物のみならず、培養・栽培・飼育中に接触した器具類や廃棄物の具体的処理方法を、確認又は推定される有効性とあわせ記載すること。

注29．遺伝子組換え実験中の表示、金網、くい、ネズミ返し等、講ずる措置を具体的に記載すること。